水産物に関するビジョン

2023 年3月改訂

CONSERVATION ALLIANCE
FOR SEAFOOD SOLUTIONS

SOLUTIONSFORSEAFOOD.ORG

謝辞

コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズは、水産物に関するビジョン・ワーキンググループのご尽力と情熱に感謝いたします。メンバーは様々な経験や知識を持つ実務家や研究者、労働者、および地域の専門家などから構成されています。引用文献に加え、本ビジョンの多くはワーキンググループの専門知識に基づいています。ワーキンググループは、この「水産物に関するビジョン」を圧倒的多数で承認しました。ご協力ありがとうございました。

Javier Van Cauwelaert	SmartFish Inc
Nicole Condon	Marine Stewardship Council
Caroline Ferguson, Ph.D.	Postdoctoral Research Associate at the University of Maine
Gabrielle Lout, Ph.D.	Ocean Outcomes
Trini Pratiwi	Asian Seafood Improvement Collaborative
Arlene Nietes Satapornvanit	Gender in Aquaculture and Fisheries Section, Asian Fisheries Society
Jenny Slafkosky	Bon Appétit Management Company
Ryo Takahashi	Seafood Legacy
Lena Weiss	Anderson Cabot Center for Ocean Life, New England Aquarium

略語集

Alliance	The Conservation Alliance for Seafood Solutions コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズ
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations 国連食糧農業機関
FPIC	Free, Prior, and Informed Consent 自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意
ILO	International Labour Organization 国際労働機関
IMO	International Maritime Organization 国際海事機関
IUU	Illegal, Unreported, and Unregulated fishing 違法・無報告・無規制漁業
SDGs	Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標
SSI	Seafood Stewardship Index 水産物管理指標
UN	United Nations 国際連合

主要な用語と定義

Responsible、Sustainable、およびImprovingという言葉の意味については、共通の定義がないことがよくあるものの、社会や環境に関する取り組みを説明する際にしばしば同じ意味で使われます。確かにこれらの用語の様々な使われ方を見ると、私たちのコミュニティの活動領域や目標、および強みの多様性が分かります。本ビジョンにおいては、

環境責任（Environmentally responsible）とは、地球への悪影響に対して真摯に取り組み、その削減や排除に努めるとともに、継続的な改善を目指す行為および活動を意味します。

ディーセント・ワーク（Decent work）とは、「自由、公平、安全と人間としての尊厳を条件とした、全ての人のための生産的な仕事」と定義されています[1]。

改善中（の漁業）（Improving）とは、信頼できる漁業改善プロジェクト[2] に取り組んでいる漁業、および養殖改善プロジェクト[3] に取り組んでいる水産養殖業を意味します。

私たちの海（Our ocean）には、淡水や海洋生態系を含むすべての水域が含まれます。

シーフード（Seafood）には、淡水または海水環境で漁獲または養殖された動物、植物、および藻類が含まれます[4]。

社会的責任（Socially responsible）とは、あらゆる性別や社会的地位にある人々に対する悪影響に真摯に取り組み、継続的な改善を目指す行為および活動を意味します。

持続可能、持続可能性（Sustainable and sustainability）とは、国連により用法が確立された用語です。持続可能性とは、「将来の世代が自らのニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たすこと」と定義されています[5]。

伝統的知識（Traditional knowledge）とは国連によれば、「数世紀にわたって培われた先住民のアイデンティティや文化遺産、文明、暮らし、および対処方策の基礎」とされており、その推進や保護、および維持は、先住民の暮らしの持続可能性や、人災および自然災害に対するレジリエンス（回復力）、およびコミュニティの発展にとって必要不可欠であり、先住民の権利の中核をなすものです[6]。

1-欧州委員会 “Employment and Decent Work.” 2023年1月24日にアクセス 。
https://international-partnerships.ec.europa.eu/policies/sustainable-growth-and-jobs/employment-and-decent-work_en.

2-コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズ “Fishery Improvement Projects Guidelines.” 2023年2月20日にアクセス。
https://solutionsforseafood.org/our-work/fishery-improvement-projects-guidelines.

3-Sustainable Fisheries Partnership. “Introduction to Aquaculture Improvement Projects.” 2023年2月20日にアクセス。
https://sustainablefish.org/introduction-to-aquaculture-improvement-projects-aips.

4-Stockholm Resilience Centre, Center for Ocean Solutions and Center on Food Security and the Environment at Stanford University, and EAT. “The Blue Food Assessment.” 2022年12月7日にアクセス。
https://bluefood.earth.

5-国際連合 “Sustainability.” 2023年2月20日にアクセス。
https://www.un.org/en/academic-impact/sustainability.

6-国連経済社会局 “Traditional Knowledge – an Answer to the Most Pressing Global Problems?” 2019年4月22日
https://www.un.org/development/desa/en/news/social/permanent-forum-on-indigenous-issues-2019.html.

目次

謝辞 **2**

略語集 **3**

主要な用語と定義 **4**

目次 **5**

はじめに **6**

コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズ 7

水産物に関するアライアンスのビジョン 7

アライアンスの2030年に向けた目標 8

責任ある水産物の実現に向けた活動 10

なぜ水産物は重要なのか？ 11

アライアンスの目標達成に向けて：連携分野 **12**

地球と天然資源 13

社会的責任と人権 15

パートナーシップ 17

署名者 **18**

補足資料 **19**

責任ある水産物の実現に向けた活動事例 20

参考資料 28

水産物のビジョン

はじめに

はじめに

コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズ

コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズ（以下、アライアンス）は、130以上の組織からなるグローバル・コミュニティであり、水産物の生産は、世界中の海の健全性と地域社会の幸福の実現に向けた変革をもたらす強力な推進力になると考えています。

水産物に関するアライアンスのビジョン

アライアンスは、労働者や地域社会、および私たちの海全てが等しく繁栄できる環境の中で、水産資源が豊富な世界を思い描いています[7]。

この壮大な未来のビジョンを実現するためには、私たちの活動全てにおいて、市場に基づく手法とガバナンスの手法を調和させるとともに、業界を越えた連携や、公平性および人と環境の相互関係を重視する新しく包括的な手法で協力していくことが必要です。

本文書は、国連（UN）の持続可能な開発目標（SDGs）の枠組みの中で、責任ある水産物の実現に向けた活動を通じて取り組むべき課題と、私たちが捉えるべき機会に関する概要をまとめています。

SDGsは、「2030年までに極度の貧困をなくし、不平等を減らし、地球を守る」という国連の計画です[8]。今日ではSDGsは社会と環境の問題を議論するための共通言語となっています。水産部門は、SDGsの17の目標のうち目標12に大きく貢献できる可能性があるため、本ビジョンでは以下の点を目標として定めています。

- 開発および食料システムに関する世界的な議論に、責任ある水産物の実現に向けた活動を結び付ける。
- 新規および既存の利害関係者が、自らのプロジェクト業務に関わりのある相互に結び付いた環境および社会の問題を特定できるように支援する。
- パートナーシップの構築や新たな課題に関する議論の実施、責任ある水産物の実現に向けた活動の団結および強化を図るプロジェクトの主導、および私たちの影響力の拡大を目指すアライアンスの取り組みにおける指針を示す。

なお補足資料の章では、SDGs達成のために水産部門が取り組むことができる活動事例をいくつかリストアップしています。

7-この水産物に関するビジョンは、当初の 持続可能な水産物に関する共通ビジョン (Common Vision for Sustainable Seafood). で発表された序論と原則を発展させたものです。2023年には、企業が持続可能な水産物に関するコミットメントを策定し実施するための6つのステップに代わり、企業向けの新しいガイドラインが発表される予定です。

8-国際連合「17の目標｜持続可能な開発目標」2022年12月7日にアクセス。
https://sdgs.un.org/goals.

アライアンスの2030年に向けた目標

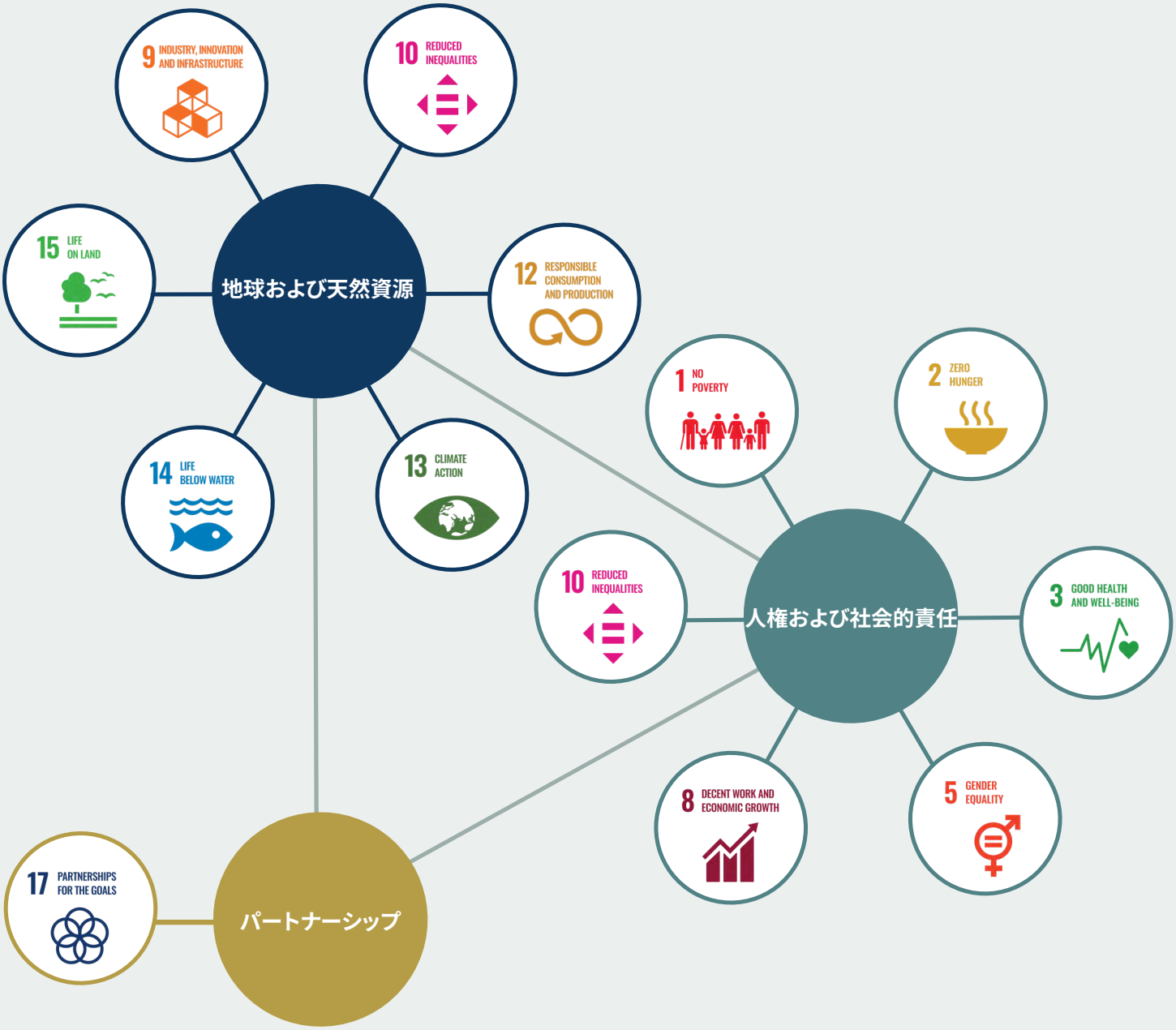
SDGsの2030年という達成期限に合わせて、アライアンスは、世界の商業用水産物生産の少なくとも75%以上が環境に責任を持つ漁業、または検証可能な改善に取り組む漁業由来という目標を掲げています。また、責任ある水産物の実現に向けた活動の2030年までの目標は以下の通りです。

- 社会的責任に関する十分な見識や情報を持っている。
- 人権や労働者の権利に関する運動のリーダーやその他の専門家と協力し、その活動の幅を拡大している。
- ベストプラクティスを実践している。

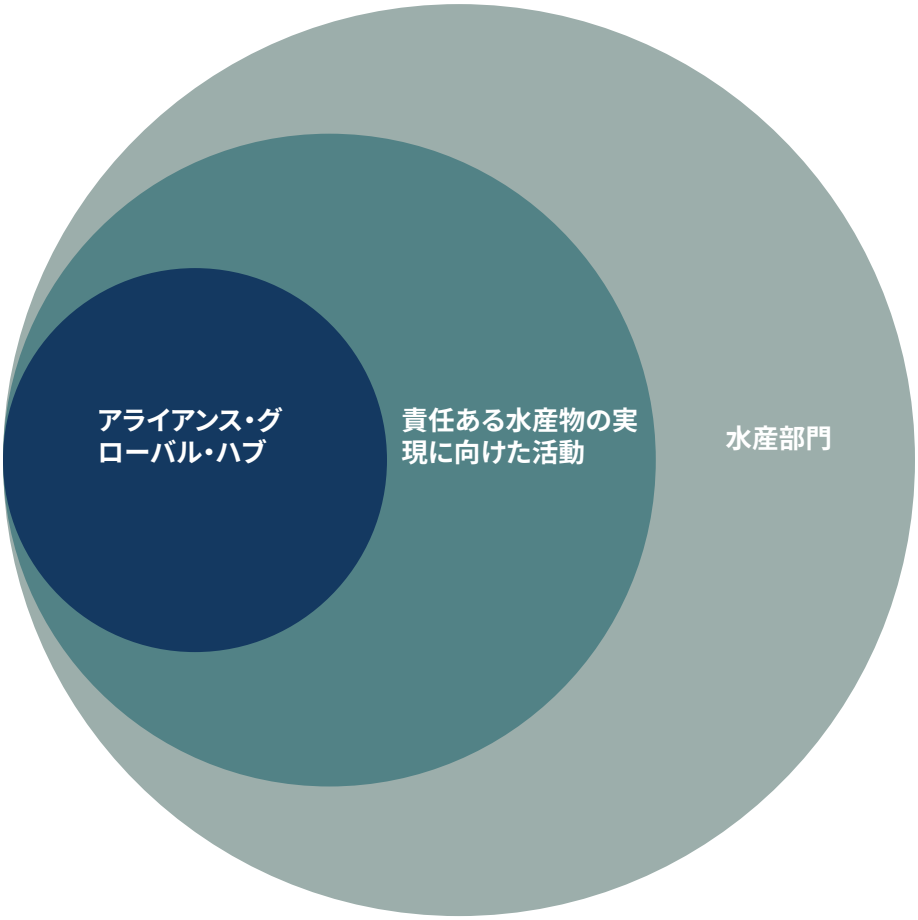
アライアンスの目標はすべてのSDGsに対応しているわけではありませんが、その社会的責任および環境に対する責任の相互依存性を強調する包括的な手法は、これまで環境的結果に焦点を絞ってきた水産物の改善努力の拡大の必要性に関する重要なパラダイムシフトを示しています。

「フードシステムの転換の必要性に関する認識が高まっていますが、これは国連の持続可能な開発目標を達成するためには、より多様で回復力の高い、公正で、健全なシステムへの移行が求められていることを示しています。」

- ブルーフード・アセスメント（Blue Food Assessment）


9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE
10 REDUCED INEQUALITIES
15 LIFE ON LAND
地球および天然資源
12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
14 LIFE BELOW WATER
13 CLIMATE ACTION
1 NO POVERTY
2 ZERO HUNGER
10 REDUCED INEQUALITIES
人権および社会的責任
3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING
8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH
5 GENDER EQUALITY
17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS
パートナーシップ

責任ある水産物の実現に向けた活動



アライアンス・グローバル・ハブは、アライアンスのビジョン実現に向けた取り組みを実践し、ラーニングコミュニティ（学習共同体）に貢献することを公約しているメンバー組織で構成されています。

責任ある水産物の実現に向けた活動には、水産物のサプライチェーンに関する環境面における責任および社会的責任の向上に取り組む組織や個人、コミュニティ、および企業が関わっていますが、アライアンスのビジョン達成に向けた取り組みに対してコミットしていない関係者も存在します。

水産部門には、上記の利害関係者に加えて、責任ある水産物の実現に向けた活動へのコミットメントや責任ある取り組みの内容について公表していない全ての関係者も含まれます。

なぜ水産物は重要なのか？

- 水産物の多様性は非常に大きく、海洋および内水面で漁獲または養殖された多くの動物や植物、藻類が含まれます。また水産物は栄養価が高く、世界中の地域社会にとって不可欠な食料の安全保障を提供しており、人間の食事にとって特に重要なタンパク質、および微量栄養素を豊富に含んでいます[9]。

- 水産物は重要な収入と雇用の源となっています。水産部門は世界中で数百万人を雇用しており、小規模生産者（漁業の90%以上を占める[10]）や女性、農村地域、および先住民にとって極めて重要な産業となっています。

- 水産物の生産は気候にも優しく、特定の水産物、特に貝類は、多くの陸上由来の食料よりも低いカーボンフットプリントで漁獲または養殖することができます。

- 水産物は責任ある生産が可能で、多くの生産方法は生態系への影響を抑えるとともに、公正で公平な労働慣行、および地域社会への良い影響をもたらすことができます。さらに、責任ある水産物の生産を通じて、気候の影響に耐えられる健全で回復力のある海洋生態系を確保することができます。

- 水産物は文化的にも重要で、漁業および水産養殖業は、多くの先住民族や先住者の伝統と生活様式の中心となっています。また、多くの料理や生活様式のアイデンティティとも密接に結びついています。

- 野生で漁獲された水産物は、私たちに残された最大の野生由来の食料源であり、水産物の多くは各地域や公海上、またはその両方で漁獲される共通の公共資源となっています。

- 現在水産養殖は漁獲漁業の生産量を上回っており、責任ある生産が行われれば、世界の人口を養うことができます[11]。

- 水産物は政治的境界を越えて流通するため、特に公海上で漁獲を適切に監視し、管理方策を実施するために、多くの国や政府部門が協力してガバナンスを行う必要があります。

- 水産物は、地球上で最も生物多様性に富み、生産的で、劣化した生態系からも漁獲されます。これらの生態系は、人々に重要な利益をもたらすと同時に、地球上の全ての生命にとっても不可欠なものです。

水産物と私たちの海

水産物
は、淡水または海水の環境で漁獲または養殖された動物、植物、藻類を含みます。

私たちの海
には、淡水および海洋の生態系を含む全ての水域が含まれます。

9-FAO “Global Production. Fisheries and Aquaculture Division [オンライン].” ローマ、2023年。2023年2月10日にアクセス。https://www.fao.org/fishery/en/collection/global_production.

10-FAO “The International Year of Artisanal Fisheries and Aquaculture 2022” 2022年。https://doi.org/10.4060/cc0461en.

11-FAO “The State of World Fisheries and Aquaculture 2022.” ローマ、2022年。2023年2月10日にアクセス。https://doi.org/10.4060/cc0461en.

アライアンスの目標を達成するために：

連携分野

アライアンスの目標達成に向けて：連携分野

アライアンスの2030年に向けた目標を達成するためには、「地球と天然資源」「社会的責任と人権」「パートナーシップ」の3つの分野での連携および進展が不可欠です。本章では、なぜ水産部門がこれら3つの分野で連携し、進歩を遂げなければならないかを概説していきます。連携を通じて、水産部門はSDGsに対する世界的な取り組みに積極的に貢献することができます。

地球と天然資源

あらゆる食料システムと同様に、野生の水産物の漁獲および天然資源を利用した水産養殖は、地球に影響を及ぼします。また水産物の生産により、生物多様性の減少や生息域の変化、環境汚染、生態系機能の劣化、および気候変動の影響の悪化にもつながります。気候変動の影響が地域ごとに不均衡になる場合は、このような不平等を是正するシステムの重要性はさらに高まります。水産部門は、環境責任に関する目標を達成するために、以下の課題に取り組む必要があります。「補足資料」の章では、特定のSDGsに貢献する活動をリストアップしています。

- **海洋生物への環境影響を防止し、低減する：**水産物の生産は海洋生物と密接に関わっています。水産養殖や海洋養殖、あるいは漁獲漁業などを通じて、ほとんどの水産物の生産は、海洋生物や生息域に影響を及ぼします。海洋生物に対する環境影響は、科学的根拠に基づく目標設定やガバナンスと施行の改善、伝統的知識の保有者との問題解決に向けた提携、および市場に基づく手法などの革新的な取り組みにより、これまでの慣行を改善するためのインセンティブの創出によって、大幅に削減することができます。さらに漁具の不適切な使用や、ダイナマイトや爆薬、および有害物質を使用する漁業など、最も影響のある破壊的な漁法を排除しなければなりません。また水産養殖の革新には、ろ過装置の適正化や廃棄物の回収、責任ある調達、海洋成分の効率的な使用、および閉鎖型システムの改善などが必要です。

- **陸域における環境影響を防止し、低減する：**水産養殖の生産および水産加工の多くは陸域で行われます。また、水産養殖や飼料生産（大豆など）に関わる排水（水産系廃棄物）や整地作業は、魚の生息域および水路に直接的な影響を与えます。全ての利害関係者は、陸域および淡水生態系が水産物の生産と相互に関連していることを認識しなければなりません。さらに森林破壊ゼロへのコミットメントや、飼料および養殖技術の革新などの方策は、水産業が陸域に与える環境影響を低減する大きな可能性を秘めています。

- **気候変動に対処し、不平等を解消する：**気候変動は世界の生態系に影響を与えており、ひいては水産物の地場消費および国際貿易における安定供給に影響を及ぼしています。水産部門は、温室効果ガス排出量を削減し、地域社会と生態系双方の回復力および適応能力を高める計画を策定するために、気候変動に関する迅速かつ有意義な行動を取る必要があります。また小規模生産者も、解決策の策定と実施のプロセスに関与しなければなりません。さらに、小規模生産者は気候変動の影響に適応するためのリソースが少ないため、どのような解決策においても、彼らが気候変動の影響を過度に受けやすい点を考慮する必要があります。気候変動への介入が迅速に実行されれば、人々と地球を守る絶好の機会を得ることができます。

- **責任ある消費および生産のパターンを確保する：**水産物の需要は今後増加すると予測されていますが、私たちは淡水資源および海洋資源を急速に枯渇させています。しかし、天然資源の責任ある消費、生産、および管理を通じて、需要増加の影響を軽減することができます。例えば水産部門は、エネルギーのより効率的な使用や汚染の低減、食品ロスや廃棄の最小化、廃棄物管理の改善、副産物の水産飼料として の活用推進、および研究開発のサポートなどに取り組むことができます。また水産業界は、責任ある調達慣行（トレーサビリティ、検証、および情報公開を含む）にコミットするとともに、この分野におけるデジタル化を進める必要があります。さらに消費者に対しては、真実かつ一貫したメッセージを発信することで、消費者が責任ある生産をサポートし、ひいては責任あるライフスタイルを実現することにもつながります。

社会的責任と人権

世界中の地域社会にとって、水産物は食料や暮らし、および貿易に必要不可欠な資源となっています。経済成長やディーセント・ワーク、男女平等、および幸福を全ての人が享受できるようにするためには、人権や安全、および公平性等の問題に取り組まなければなりません。また、国や地域社会の利害関係者間においては、天然資源から利益を得る機会は平等ではありません。そのため水産部門が持続可能な開発を達成するためには、人間の尊厳や社会福祉、食料安全保障、および食料主権の問題に重点的に取り組まなければなりません。

- 貧困および世界的飢餓の撲滅に取り組み、健康および幸福を促進する：世界では3億8,100万人が飢餓や栄養不足に苦しんでいますが[12]、食料不安に陥る可能性は、男性よりも女性のほうが高くなっています。30億人以上の人々が、1日のタンパク質の20%を、ビタミンAやビタミンB[12]、カルシウム、ヨウ素、鉄、亜鉛、およびオメガ3脂肪酸などの必須栄養素とともに魚介類から摂取しています[13]。水産部門は、ネイチャー・ポジティブな食料システムの推進や、食品廃棄物の削減、ディーセント・ワークの提供、水産物の商業生産の継続、および地域社会のために零細漁業および零細水産養殖へのアクセスを維持することにより、健全で信頼性の高い、価格も妥当な食料供給システムの構築に貢献できます。

- 男女平等を実現する：水産物の生産に携わる労働者の半数近くを女性が占めていますが、加工施設で働く労働者の大半、および小規模漁業に従事する労働者の4割が女性となっています。しかし、ガバナンスにおいて女性は軽視されており、非正規、無報酬、不明瞭な役割で仕事をすることが多くなっていますが、この分野のデータは不足しています。女性は均質なグループではありません。女性の比率と役割は、他の様々な交差するアイデンティティ（例えば、信条や障害、配偶者の有無や家族の状況、および性的アイデンティティなど）に依存します。水産物の生産において女性に対する認識が高まり、より重要な役割へのアクセスが可能になれば、収入が上がり、栄養面でも利益を得ることができます。水産業における女性の労働は、経済的、文化的、社会的に重要ですが、水産政策や支援プログラムではほとんど注目されていません。この注目度の低さは、海上での強制労働やIUU漁業、持続可能な漁業管理、および災害復旧や復興などに取り組むうえで、正式な漁業統計や重要な意思決定から女性を除外することにつながっています[14]。

12-FAO、IFAD（国際農業開発基金）、ユニセフ、国連世界食糧計画、世界保健機関「世界の食料安全保障と栄養の現状2022年度版：健康な食生活を享受するための食料・農業政策の見直しを」 2022 年度世界の食料安全保障と栄養の現状(SOFI) イタリア・ローマ：FAO、国際農業開発基金、ユニセフ、国連世界食糧計画、世界保健機関、2022年。
https://doi.org/10.4060/cc0639en.

13-ブルーフード・アセスメント "Building Blue Food Futures for People and the Planet." BFA、2021年9月。
https://bluefood.earth/policy/.

14-アメリカ合衆国国際開発庁（USAID）、Gender in Aquaculture and Fisheries Section（GAFS）、珊瑚礁、漁業および食糧安全保障に関するコーラル・トライアングル・イニシアティブ（CTI-CFF）、およびインド農業研究委員会中央漁業技術研究所（ICAR-CIFT）"Decent Work and Thriving Businesses for Women in Fisheries: A Cooperative Action Plan" 2022年。
https://www.rti.org/brochures/women-fisheries-cooperative-action-plan.

ディーセント・ワークとは何か?

「ディーセント・ワークとは、人々の労働生活における願望を要約したもので、生産的で公正な収入をもたらす仕事の機会があり、職場における安全が確保されている、全ての人が社会的に保護され、自己啓発や社会的統合に関する見通しが明るい、生活に影響を与える決定に対して懸念を表明し、団結権を行使して意思決定に参画する自由がある、全ての女性と男性に対して平等な機会と待遇が与えられている、などの要素が含まれます。[15]

- 国際労働機関（ILO）

- **ディーセント・ワークを推進する：**漁業や水産養殖業および水産加工業における労働は、報酬が低く、非正規で不安定な雇用であることが多く、労働者の意思決定への参画は限定的か、全くない状態になっています。また強制労働や不正な雇用形態、人身売買、危険な児童労働、差別、および非常に危険な労働条件など、水産部門全体にわたる権利の侵害や搾取的な慣行は、文書で十分に裏付けられています。さらに水産業の労働者、特に遠洋漁業に従事する移民労働者や小規模生産者、および女性に対する保護には、依然として現実との大きな隔たりがあります。政府と水産部門は、海上および陸上労働者の労働条件を業務全般にわたり改善する責任を負っていますが、ディーセント・ワークを保証することで、労働者の基本的な権利が守られるとともに、貧困の撲滅や社会福祉、および持続可能な開発をサポートすることができます。

インクルーシブなムーブメントを構築する

本書では、「女性および女児」は、トランス女性および女児を含んでいます。また、LGBTQ2IA+という言葉は、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クィア、クエスチョニング、トゥー・スピリット、インターセックス、アセクシュアル、およびシスジェンダーや異性愛者の枠組みから外れたその他のアイデンティティを指すために使用されています。

責任ある水産物の実現に向けた活動においては、政府を政策改革に巻き込み、労働者に寄り添う柔軟な労働条件を策定するとともに、事業の賃金格差を解消し、性と生殖に関する健康および権利を支援することにより、女性やその他の性的およびジェンダーマイノリティを擁護する必要があります。LGBTQ2IA+の人々を受け入れるためには、責任ある水産物の活動においてもさらなる取り組みが必要であり、彼らの権利を明確に擁護しなければなりません。

さらに女性や女児、およびLGBTQ2IA+のグループに対する差別や暴力を排除し、無償介護や地域活動、および家事労働の価値を認め、性と生殖に関する健康へのアクセスを保証するとともに、女性や女児、およびその他の疎外されたグループの経済機会を創出し、漁業管理への参加を促し、リーダーとしての能力を育成することにより、ジェンダー平等の達成に貢献することが可能になります[16]。

15-国際労働機関（ILO）“ディーセント・ワーク” 2022年12月7日にアクセス。
https://www.ilo.org/global/topics/decent-work/lang--en/index.htm.

16-国際連合 “目標5：ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う” 2022年12月7日にアクセス。
https://sdgs.un.org/goals/goal5.

私たちは包摂(インクルージョン)と平等を達成するために、政府を政策改革に巻き込むとともに、労働者に寄り添う柔軟な労働条件の作成や賃金格差の解消、および性と生殖に関する健康へのアクセスのサポートなどを通じて、全ての人々を尊重することを提唱します。また責任ある水産物の実現に向けた活動においても、差別や暴力の排除や、全ての人のための経済機会の創出、および全ての層、特に女性やLGBTQ2IA+グループの参画とリーダーシップの向上に向けて取り組みます。

パートナーシップ

前競争的なプラットフォームの構築に取り組む水産企業は、2018年から2021年にかけて約60%増加しましたが[17]、環境および社会的責任の目標を達成するためには、さらなるパートナーシップと連携が必要になります。

本ビジョンで詳述した課題を進展させるため、アライアンスは、責任ある水産物の実現に向けた活動や、水産部門全体、および政府とのパートナーシップを奨励、促進、および強化し続けます。

グローバル・ハブを通じたパートナーシップの構築は、引き続きアライアンスの中心的な活動となります。アライアンスは、グローバル・ハブ・メンバーが革新的な手法で本ビジョンに詳述された課題や目標に取り組めるように、以下の活動を実施します。

- 水産物の生産に関するベストプラクティスと政府の要求事項との整合に向けて、国際的に協力する。
- 水産物の生産国の人々や地域を支援する。
- 社会権や労働者の権利に関する専門家との対等で信頼できるパートナーシップ構築に向けて主導的な役割を果たすことにより、グローバル・ハブが労働者の利益になるように彼らの活動を支援（弱体化させない）できるようにする。

17-CEAコンサルティング “2022 Progress Toward Sustainable Seafood - By the Numbers” 2022年9月. https://oursharedseas.com/wp-content/uploads/2022/09/2022-Progress-Toward-Sustainable-Seafood-By-the-Numbers.pdf.

署名者

以下の署名者は、この「水産物に関するビジョン」に賛同するとともに、プロジェクトやコミットメントを策定または実施する際には、国連の持続可能な開発目標を推進し、検討します。

Aquatic Life Institute
Australis Aquaculture
Blue Bridge Consulting Inc.
FISH Safety Foundation
FishWise
Francisco Blaha
Future of Fish
Kate Barclay
Lusamerica Foods – Monterey Bay Seafood
Mar y Comercio
Ocean Outcomes
Ocean Wise Seafood
Organic Ocean Seafood Inc
Paiche
Patuakhali Science and Technology University
Premier Catch
Pronatura Noroeste
Qingdao Marine Conservation Society (QMCS)
Rob Stewart Sharkwater Foundation
Seafood Legacy
SmartFish Comercializadora
SmartFish Rescate de Valor
The Marine Mammal Center
Vericatch
World Benchmarking Alliance

補足資料

補足資料

責任ある水産物の実現に向けた活動事例

以下の表は、責任ある水産部門の実現に向けて全体的な改善を推進し、SDGsに貢献するために利害関係者が実施できる活動事例のリストです。ただリストは全てを網羅しているわけではなく、全ての利害関係者にあてはまるわけではありません。

また可能な限り、ワールド・ベンチマーク・アライアンスの水産物管理指標（SSI）のような既存の推奨事項からも活動を取り上げています。

海洋生物への環境影響を防止し、低減する（SDGs3、14、15に対応する行動を含む）

1. 企業向けガイドラインに基づき、公表したコミットメントを展開する。	SSI指標B1
2. 環境または社会的課題に取り組むために、養殖改善プロジェクトおよび漁業改善プロジェクトを実施する。水産業界の関係者や水産部門の力を活用して、改善を奨励するとともに、持続的な政策転換を促す。	SDGs目標14.5
3. 天然資源の責任ある管理やIUU漁業との闘い、海洋ゴミやその他の汚染の発生を低減するベストプラクティスの採用、格付けや認証を受けた製品の支持および選択、プラスチック使用の削減、敏感で脆弱な生息域の回避、および抗生物質の使用やその他の化学処理の削減など、他の種（特に絶滅危惧種や危急種、および保護種）や生息域、および生態系への漁業および水産養殖の影響の制限（ただしこれだけに限定されるものではない）。	SDGs目標3.9 SDGs目標14.1 SSI指標B13
4. 海洋資源や市場および沿岸域の管理や、女性の役割の支援、および回復力のある地域社会の開発推進の際には、小規模生産者および伝統的な知識の保有者のニーズを考慮する。	SDGs目標14.7
5. 養殖水産動物に関する動物福祉の5つの柱ー（1）水質、2）飼養密度、3）飼料組成、4）環境エンリッチメント、5）スタニングおよび屠殺ーを考慮する。また、漁獲や採集時、およびスタニングや屠殺時には、野生魚の漁獲漁業に関するベストプラクティスを遵守する。	SDGs目標14.4および14.C

陸域への環境影響を防止し、低減する（SDGs14、15に対応する行動を含む）。

1. 生物多様性、特に絶滅危惧種や危急種、および保護種を保護し、影響を低減するための活動を実施し、管理するとともに、外来種の導入や拡散を防ぐためのベストプラクティスを活用する。	SDGs目標15.5および15.8
2. 淡水資源については、他の人間の利用者および広範な生態系のニーズの両方を考慮し、責任を持って効率的に利用する。	SDGs目標15.1
3. 水産養殖および、その他の水産物の生産活動から出る排水やその他の物質の土壌や水への浸透、排出、および侵入を制限するなど、土地や淡水資源の他の用途への影響を軽減するベストプラクティスと緩和策を採用する。	SDGs目標15.1
4. 生態系の機能や生物多様性、および陸上での養殖や飼料生産の管理において、利用できる最善の科学を織り込むように政府に働きかける。	SDGs目標14.4

気候変動に対処し、不平等を是正する（SDGs1、9、10、13に対応する行動を含む）。

1. 政策や経営戦略に気候変動に対処する行動を盛り込む。	SDGs目標13.2
2. 国連気候変動枠組み条約の実施を支援するとともに、リスク管理および予防の一環として、Anticipatory Action Approaches (先見的行動手法)を実施する。	SDGs目標 13.4
3. 生活改善、貧困の低減、および基本的生活条件の向上のための適応策を実施する。	SDGs目標 1.1 SDGs目標 10.1
4. 温室効果ガスの排出量を削減し、クリーンで環境に配慮した技術を採用するとともに、順応的管理を支援する。	SDGs目標 9.4 SDGs目標 13.1

責任ある消費および生産が行われるようにする（SDGs3、8、9、12、14に対応する行動を含む）

1. 予防、削減、リサイクル、および再利用を通じて、廃棄物の発生を抑制する。	SDGs目標3.9 SDGs目標9.4 SDGs目標12.5
2. 天然資源の責任ある管理と効率的な利用を実現する。	SDGs目標8.4 SDGs目標12.2
3. 小売店や消費者レベルで食品廃棄物を削減する。さらにポストハーベスト・ロスなどの、生産とサプライチェーン全体にわたる食品ロスを削減する。	SDGs目標12.3
4. 企業、特に大企業や多国籍企業に対して、責任ある事業慣行にコミットし、持続可能性に関する情報を報告サイクルに組み込むよう奨励する。	SDGs目標12.6
5. 魚粉や魚油への転換をはじめとする、水産副産物を再利用する革新的な方法を取り入れるなど、より循環型の水産物生産サイクルを支援する。	SDGs目標12.2
6. 水産養殖種の生存率や成長率、収量、耐病性、および飼料効率を高めるために、選択的育種の利用を促進する。	SDGs目標14.1および14.2
7. トレーサビリティと合法性に関する期待をサプライチェーンに伝え、主要なデータ要素を追跡するシステムを構築することを目的として、企業およびサプライチェーン内の透明性とトレーサビリティを改善するための措置を講じる。	合法性とトレーサビリティのためのシーフード・アライアンス (SALT: Seafood Alliance for Legality and Traceability

貧困と世界的飢餓に対処する（SDGs1、2、8、10に対応する行動を含む）。

1. すべての人々、特に弱い立場にある人々が、安全で栄養価が高く、十分な食料にアクセスできるように取り組む。	SDGs目標2.1
2. フェアトレードUSAのような既存の価格プレミアムモデルの導入や、価格プレミアムの分野におけるイノベーションを検討することにより、改善費用をサポートし、労働者に公正な報酬を支払い、地域社会への投資を可能にする。	SDGs目標8.5 SDGs目標10.1
3. 養殖業者および漁業者、特に小規模生産者や社会から疎外されたグループに対して回復力や生産性、市場へのアクセスを支援する。例えば、生活所得の格差評価の開示をコミットするとともに、小規模生産者を支援するために、全体的なシステムレベルでの複数の利害関係者との取り組みのエビデンスを提供する。	SSI指標D23
4. FAOの「食料安全保障と貧困撲滅のための小規模漁業の持続可能性に関する自主ガイドライン」(SSFガイドライン）のようなガイダンスを採用し、小規模漁業者や漁業従事者の権利を促進する。細分類されたデータの収集と活用により、小規模生産者を支援する。	SDGs目標1.1（および小規模漁業に関する報告書 “ Illuminating Hidden Harvests ”において強調されている。）

ディーセント・ワークの推進（SDGs8と10に対応する行動を含む）

1. 事業活動や水産物のサプライチェーンにおける人権および労働者の権利の侵害を評価、監視、および防止するとともに、リスクへの対処や労働条件の改善に関して透明性のある報告を行う。	SDGs目標8.7および8.8 国連ビジネスと人権に関する指導原則 SSI指標D20
2. 船舶の安全性と適切な労働条件に関する基準の普及を提唱し、労働者が職場の安全性および権利に関する適切な訓練と教育を受けられるようにする。	SDGs目標8.7および8.8 ILO漁業労働条約(C188) 違法漁業防止寄港国措置協定 IMO漁船の安全のためのケープタウン協定 船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約 船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約改正版
3. 労働者が労働条件に関連する活動に参加し、主導できるよう、労働者の参画に関するベストプラクティスを採用する。また、企業は少なくとも全ての労働者がアクセスできる効果的な苦情処理メカニズムと改善プロセスを導入する必要がある。	労働者主導の社会的責任ネットワーク（Worker-Driven Social Responsibility Network RISE Worker voice continuum
4. 透明で公正な採用プロセスにより移民労働者を雇用する。	SDGs目標8.7 SDGs目標10.7 責任ある採用デューデリジェンス・ツールキット

5. 労働組合やその他の組織化されたグループ、特に小規模漁業者や養殖業者のような非正規労働者のグループを支援する。	SDGs目標8.8 SSFガイドライン
6. 地域社会への利益を優先するとともに、および先住民族や先住者の伝統的知識を積極的に取り入れる。	SDGs目標10.3 SSFガイドライン 先住民族の権利に関する国際連合宣言 2007年 FAO国家の食料安全保障の文脈における土地所有、漁業、森林の責任あるガバナンスの任意ガイドライン 2012年
7. 水産養殖や小規模漁業、および多様な地域など、これまであまり研究されていない部門において、ディーセント・ワークの理解を深めるために研究を行い、得られた知見やデータを、透明性を持って共有する。	SDGs目標8

ジェンダー平等の実現（SDGs1、3、5、10に対応する行動を含む）

1. 女性および女児に対する差別、暴力、および搾取をなくすために努力する。無償の介護や家事労働を尊重し、リーダーシップおよび意思決定への完全かつ平等な参加を保証する。性と生殖に関する健康および権利への普遍的なアクセスを可能にする。また、経済的資源や財産所有権、および金融サービスに対する平等な権利を保証する。さらにジェンダー平等の実現のため、関連する政策および拘束力のある法律を採用し、強化するとともに、ジェンダーに配慮したインフラ、政策、および苦情処理メカニズムを推進する。	SDGs目標1.4および1.7 SDGs目標3.1および3.7 SDGs目標5.1 SDGs目標10.1および10.4
2. 政策改革については政府を巻き込み、労働者に寄り添う柔軟な労働条件を策定することで、水産物生産における女性やLGBTQ2IA+の役割を支援する。	SDGs目標10.3
3. 性別や年齢、人種、およびその他の交差するアイデンティティ（信条や障害、婚姻や家族状況、および性的アイデンティティなど）の異なる従業員の報酬を分析し、平等性を担保するための行動を取る。ジェンダーおよび給与の公平性に関する分析を実施し、その結果を公表する。	SSI 指標 D13
4. 時間的制約のある指標と目標を設定したジェンダー平等に関する公約を策定し、報告する。また、サプライチェーンにおけるジェンダーごとに細分類されたデータを収集するとともに、女性やこれまで過小評価されてきたグループを最高のガバナンス機関に登用する。さらに成功に向けたリソースを提供する。	SSI 指標 D14

パートナーシップの強化（SDGs17）

SDGs目標17.17 は、「様々なパートナーシップの経験やリソース戦略に基づいた、効果的な公的、官民、および市民社会のパートナーシップを奨励し、推進する。」と述べています。アライアンスは共に活動するグループのコミュニティであることを考えると、アライアンスは活動に関する提言を行うだけでなく、特定の活動にもコミットすることが重要です。さらに責任ある水産物の実現に向けた活動をSDGs目標17.17とすり合わせるとともに、本ビジョンを達成するために、アライアンスは以下の活動を実施します。

1. アライアンスの2030年目標の達成に向けて、気候のテーマを含む環境および社会的影響の低減を支援するために、責任ある水産物の実現に向けた活動の調整を行う。
2. 責任ある水産物の実現に向けた活動において、ベストプラクティスの採用や、意欲的かつ達成可能なコミットメントの設定、および透明性や、情報開示、および進捗に対する共通の期待値を設定するように働きかける。
3. 労働者および権利に基づくアプローチや生活賃金の支払いなど、社会的責任のベストプラクティスに関する議論を主導する。
4. 多様性と包摂性を重視し、コミュニティが既存の不平等とそれに対処する方法を認識できるようにする。
5. グローバル・ハブ内の女性や有色人種、およびLGBTQ2IA+のメンバーに焦点を当て、専門的な能力の開発やネットワーキング、およびリーダーとして貢献できる機会を設ける。
6. 責任ある生産とSDGsの達成に向けた様々なアプローチの機会や欠点について、難しい課題に関して議論をする場を設ける。
7. 漁業者や漁業労働者など、アライアンスの議論および意思決定に最も影響を受ける人々の視点をさらに反映させるための活動を取り入れる。

参考文献

リソース(アルファベット順)	著者
A call to action from small-scale fisheries は、各国政府が小規模漁業の保護と再生を確実に実施し、経済や健康、文化、および幸福に貢献し続けることを求めています。	Coalition for Fair Fisheries Arrangements
Action Platform for Sustainable Ocean Business には、海洋経済と持続可能な開発を推進するために、企業や市民社会、国連、および各国政府が参加しています。	Ocean Stewardship Coalition
An Industry Shift Towards Environmental Enrichment では、水生生物の福祉や、環境エンリッチメントの機会について説明しています。	Aquatic Life Institute
Free, Prior, and Informed Consent (FPIC) of Indigenous Peoples Manual は、自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意（FPIC）の権利、およびその実施に向けた6つのステップに関する情報を提供しています。	国連経済社会局：先住民族
Global Dialogue on Seafood Traceability は、水産物のトレーサビリティに関するグローバルな業界標準を策定しています。	Global Dialogue on Seafood Traceability
Good Food Institute は、代替タンパク質のイノベーションを加速させるために活動する非営利のシンクタンクと組織の国際ネットワークです。	Good Food Institute
Guide to Tools and Resources は、様々な環境および社会テーマに関する主なツールやリソースを紹介しています。	Conservation Alliance for Seafood Solutions
How Responsible Aquaculture can contribute to the UN's Global Sustainable Development Goals は、責任ある水産養殖がどのようにSDGsに貢献できるかを考察しています。また、ASCのこれらの目標に対する貢献度を、検証可能な形で定量化するための方法論を策定しています。	水産養殖管理協議会（ASC）
Illuminating Hidden Harvests は、小規模漁業者の利益や相互関係、および影響に関する新しい証拠を提供し、政策と実践に役立てます。	FAO、デューク大学、WorldFish
Inter-agency and Expert Group on SDG Indicators （IAEG-SDGs）は、国連の 2030 年アジェンダの目標に関する世界的な枠組みを提供しています。	国連経済社会局統計部
Key Animal Welfare Recommendations for Aquaculture は、水生生物の福祉に関するAquatic Animal Allianceの立場の背景と正当性を示しています。	水生生物研究所（The Aquatic Life Institute）
Key Welfare Recommendations for Whiteleg Shrimp は、養殖甲殻類の福祉に関する考察を説明しています。	水生生物研究所（The Aquatic Life Institute）
Key Welfare Recommendations for Wild Capture Fisheries では、漁獲漁業における福祉の懸念について述べています。	水生生物研究所（The Aquatic Life Institute）
Local marine stewardship and ocean defenders は、研究や政策、実践、および資金調達において、地域の海洋管理および保護活動に対するより大きな関心と支援を得るために、5つの提言を行っています。	Bennett, N.J., Le Billon, P., Belhabib, D. et al.

リソース(アルファベット順)	著者
水産物管理指標（Seafood Stewardship Index）の方法論は、SDGsと水産物部門固有の原則やガイドライン、および基準を4つの評価分野にわたる48の指標に落とし込んでいます。この48の指標には、18の中核的な社会指標が含まれており、これを基に影響力のある企業約2000社が評価されています。	ワールドベンチマーキングアライアンス（World Benchmarking Alliance）
Oxfam's Recommendations for Food Retailers to Address Gender Inequality in Global Supply Chains は、スーパーマーケットに対して、サプライチェーンにおけるジェンダー平等へ向けた根本的な転換を求めています。	オックスファム（Oxfam）
Protein Scorecard は、タンパク質1gあたりの温室効果ガス排出量に与える影響が低いものから高いものまで、食品をランク付けしています。	世界資源研究所（World Resources Institute）
Seafood and the Food System は、CLFの活動を紹介するとともに、本テーマに関するいくつかの文献へのリンクを掲載しています。	Johns Hopkins Center for a Livable Future (CLF)
Small-Scale Fisheries in a Warming Ocean は、世界の水産物生産の約半分が気候危機によるリスクにさらされており、小規模漁業者は海洋の温暖化により、特に甚大な影響を受けていると報告しています。	WWF、Agrocampus Ouest（フランス）、ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）、チャールズ・ダーウィン財団（ガラパゴス）、Instituto Nacional de Pesca（エクアドル）。
Small-scale fisheries in a warming ocean: exploring adaptation to climate change は、気候リスクモデリングと草の根活動を組み合わせることにより、温暖化する海洋が小規模漁業にとってどのような意味合いを持つのかを理解し、新しい現実に適応するための重要な戦略を特定しています。	WWFドイツ
Social equity is key to sustainable ocean governance は、海洋ガバナンスにおける公平性に関する文脈に即した確かな情報に基づく評価をサポートするための枠組みを示しています。	Crosman, K.M., Allison, E.H., Ota, Y. et al.
The Environmental Impact of Food は、陸域の食料生産と比較した水産物の環境影響を調査しています。	ワシントン大学持続可能な漁業プロジェクト
The future of food from the sea は、海洋における主な食料生産部門を調査し、生態学的、経済的、規制面、および技術的な制約を考慮した「持続可能な供給曲線」を使用し評価しています。これらの供給曲線を需要シナリオと重ね合わせることで、将来の水産物の生産量を推定しています。	Costello, C., Cao, L., Gelcich, S. et al.
The Global Goals は、個人や学校、および企業に関する行動を含むSDGsの17の目標を要約しています。	Project Everyone
The Nutrition Source: Aquatic Foods は、水域に生息する動物、植物、および微生物を含む水産食品に関する詳細な情報を提供しています。	ハーバード大学公衆衛生大学院
The Roadmap for Improving Seafood Ethics (RISE) は、企業が水産業界全体においてディーセント・ワークの条件を創出するのに役立つ無料のオンラインリソースです。	Fishwise
世界の食料安全保障と栄養の現状2022年度版 は、2022年から2030年にかけたFAOの水産物食料システムに関する活動のビジョンを示しています。	FAO

リソース(アルファベット順)	著者
True Cost of Food: Measuring What Matters to Transform the U.S. Food System は、私たちの健康や環境、生物多様性、および暮らしなどへの影響を含む、食料のコストについて概説しています。	ロックフェラー財団
Advocating for humane capture fisheries は、漁獲プロセスのすべての段階において、野生魚の漁獲漁業における最良の動物福祉の慣行を研究し提唱する国連のプロジェクトです。	国連海洋科学の10年
先住民族の権利に関する国際連合宣言は、先住民の人権を取り上げた包括的な声明です。	国連経済社会局：先住民族
Voluntary Guidelines on the Responsible Governance of Tenure of Land, Fisheries, and Forests in the Context of National Food Security は、全ての人のために食料安全保障を達成するという包括的な目標のもと、土地や漁業、および森林の保有権のガバナンスを改善するためのガイダンスを提供しています。	FAO
Which countries are achieving the UN Sustainable Development Goals fastest? は、各国のSDGsに関連する業績を評価しています。	世界経済フォーラム、Andrea Willige
Wild Capture Fisheries Best Practices for Aquatic Animal Welfare は、商業漁業における「福祉に配慮した」慣行の事例を紹介しています。	水生生物研究所（The Aquatic Life Institute）

A PROJECT OF THE

CONSERVATION ALLIANCE
FOR SEAFOOD SOLUTIONS

SOLUTIONSFORSEAFOOD.ORG